

その5)

# 問題解決には、話し合いの場を！

本当に建つても飯森に建てますか？

今回5回のシリーズ発行に際して、村内のいろいろな立場の皆様にご意見を伺いました。皆さんの共通したご意見は、『村の将来を考える絶好のチャンスだから、行政も住民も一体になって考えることが大切だ。そのためには拙速はいけない。十分に時間をかけて真剣に話し合う場が必要だ。』

ということでした。



この「ごみ問題」はこれから20年間の村の「生き方」を決める大問題です

私たちは  
広域連合と住民団体共催の  
公開シンポジウムの開催を  
希望しています。

白馬村議会にも提案(陳情)しましたが、不採択になりました。議論が尽くせているとは、とても思えないのに…。

公開の場で、自由で素直な議論を通して、20年間以上の将来にわたる“村の生き方”を真剣に考えましょう！

白馬の売りは  
景観・自然・おいしい空気  
おいしい水々。  
子供たちに、しっかり残そう！

子供たちが大きくなって「白馬で仕事する。」「ここで生活する!」「自慢のふるさとです!」と言える白馬村を築いていきましょう！

「飯森に建ってもいいの?」  
10/1(水)  
~白馬の未来とごみ問題の勉強会  
日時:10/1(水) 19:00~21:00  
場所:白馬村ふれあいセンター2F  
主催:ゴ三連

基調講演は田中欣一さん

大町市民も考え始めました!

皆さんの「声」をお聞かせ下さいね!  
Fax: 0261-72-7465  
e-mail: info@hakuba-kaeru.com

現在の広域の態度は、「行政の一部の人間ではあるが、計画を立てているのだから、どうか黙って承認してくれ!いろいろ意見もあろうが、行政の立場を考えて辛抱してくれ!」であり、とても住民の意見を聞いて計画の見直しを考える気がなさそうです。

今後も辛抱強く、行政に考えを変えるように働きかけ続けます。皆様の励ましや、貴重なご意見をお待ちしています。

「ゴミはどこまで減らせるか」  
~シンポジウム in 大町  
パネラー: 牛越 徹氏(大町市長)  
田中 欣一氏(民俗・日本思想史家/白馬村)  
日時:10/4(土) 18:00~21:00  
場所:大町公民館分室、2階講堂(保健センター2階)  
参加協力金:500円  
主催:ゴミ減量を考えるシンポジウム実行委員会「遊」企画  
お問合せ:0261-23-3673

再検討委員会をつくらせて下さい!

行政・住民・専門家で、話し合える「場」をつくって

- 1. 現施設を大切に使う
- 2. ごみの分別・減量化
- 3. この地にあった施設をつくる

などを話し合うのが、「最善の策」ではないでしょうか?

これで、有害物質の量を減らせるよ!

●ゴミ問題の実状は「病める日本の象徴的な姿」だ ●日本国首相はゴミ問題と真正面に取り組むことを、スローガンとして掲げよ ●国はゴミ省(仮設)を創設して優先・抜本的に取り組め ●出た(出した)ゴミを処理場へ持って行けば、何とかしてくれるは時代遅れ ●ゴミ問題は、個々の意識改革こそが、その出発点

## 1. 地球と日本のいま

- 「サボテンとイグアナの島ガラパゴスに 昼夜を舍(お)かずゴミの燃ゆとは」(東京・石丸啓子、朝日歌壇・H20.4.13)
- 瀬戸内海国立公害園 ●対馬海峡の海底に、ゴルフボールが何十万個も
- 富士山を世界遺産に・・・大賛成、だがあのものすごいゴミがなくなったならば・・・は立派な見識
- 日本は世界で一番、ゴミ焼却施設と煙突の多い国 世界の2/3が日本にあるという

## 2. ゴミの昔といま

- 昔…… 少量、腐った(土に帰った)、無害、再利用(繕う)
- いま… 大量、腐らない(形として残る)、有害(毒)、使い捨て

大量生産→大量消費→大量廃棄(焼却)

## 3. 先進国に学ぼう

- EU諸国 燃やさないゴミ処理への転換。焼却炉稼働は禁止の方向へ ●スイス アルミ缶は廃止 ●ドイツ 自動販売機は置かない、分別用の箱がいたる所に ●包装廃棄物の規制令 ●発生源の製造業者・流通業者・輸入業者に回収・リサイクルの義務化

## 4. 日本の先進地に学ぼう

- 先進地のゴミ政策と取り組み姿勢と実践例は、国の政策・指導を上まわっている 日本の政府と企業の政策(対策)は、世界の潮流に逆行している ●ゴミ減量・ゼロを目指す自治体は加速度的に増加している ●ゴミ施設の広域化から離別する自治体が増加している ●発生したゴミをどう処理するかという従来型の選択は、時代遅れ、経済破綻(はたん)は目前

## 5. 減量のキーポイント

- ゴミ減量は「大事なことだ、考えている」ではダメだ ●減量化のための行政・専門家・民間の三者協働の組織(委員会)を早急に立ち上げよ ●委員会が公開を原則とする ●委員は充職でなく、「やる気のある人こそが人材」という視点で(年齢・経験・性別は二の次)下からの盛り上がりこそが命 ●女性の登用に重きを置く ●委員会は減量を目指して積極的な提案をする ●白馬村の環境課の創設はヒット、注目したい “あーす隊”の先駆的な活動に敬意

以上の視点に立つとき

## 6. 新しい施設は不要 既存施設で十分

- あと10年は持つという、八方の現施設を大事に使う ●ゴミの大幅減量が達成されれば、現有施設の養生費は無論、破格の建設費は他への流用が十分に図られる ●飯森案も代替案も不要となる

## 7. 広域連合のあり方

- 広域化の推進は、事によりけりだ ●例えば、消防、葬祭場などは広域で結構 病院、ゴミ処理など日常生活に深くかかわるものは近くにあるほどよい(周辺化が促進されるものの広域化は不可) ●経済性を優先させると、憂うべき事態が起きる(歴史が証明している)

## 8. 地震について

- 姫川筋(中部地溝帯地域)は、いつ地震があっても不思議ではない ●50mはおろか、1km離れていても安全圏ではない ●善光寺地震(弘化4年、161年前)の教訓。小谷-大町-池田の間だけでも(震源地から40km離れている)倒壊413戸、半壊642戸、死者67人、崩落ヶ所多数だった ●大地が鳴動し、地殻変動が起きる話だ 自然の強大なエネルギーの前には、人はひれ伏すしかない ●地震は今夜起きるか、100年後か、500年後か分からない

## 9. 有害(毒)物の拡散について

- ダイオキシンなど ●今どき有害物質が吐き出される施設が認められることは、あり得ない、問題外だ ●もし煙突から吐き出される、目に見えないものによって、有害が実証されれば、大混乱を招くこと必定 施設は直ちに閉鎖せざるを得ない ●建造物に老朽・損傷・思いもよらない過失はつきもの 国が総力を挙げて危険防止につとめている、原子力発電所でもあの通りだ ●鳥やトンボから赤信号(白馬の空は飛べない)が出されなければいいが ●トンボが住めないところには、人も住めないのである

## 10. 景観問題について

- 白馬(大町も小谷もそうだが)は自然の計り知れない恩恵によって、今日あることを得た ●スキー産業の斜陽化、平地観光の復興を願って気付かされたことは、戦後60年の歩みは平地観光の資源を食いつぶしてきた歴史だった ●目先の便利さと功利性を優先してきた歩みだった ●飯森の予定地は大町から小谷への道筋に見られる最大規模の赤松林だ ●予定地には人工物がなく白馬三山の引き立て役・前景として大きな役割を担っている ●その美しさは、大糸線の車窓から見るととき極まる(四季を通して)

## 11. ゴミ問題は文化の問題

- ゴミとどう向き合うかは、環境・暮らしのあり方・生き方の哲学が問われている問題だ ●ゼニカネを超えた美しい村づくりの第一歩だ ●ゴミ問題と真剣に向き合うことは、村と町と国を救い、地球貢献への王道を歩むことである

## 12. 広域連合は引き返す勇気を

- 広域連合は悪天候を冒して山に登ろうとしてはいないか ●口を開けば財政ひっ迫という時代、いまこそ発想転換をすべきとき ●引き返す勇気を 大向こうから「よくやった、すばらしい決断だ」という喝采が聞こえてくるのではないか

